

2013年9月11日

報道関係者各位

国際基督教大学
計4枚

国際基督教大学 献学 60周年記念事業
南京サービス・ラーニング特別プログラム

日中の大学生がお互いの社会でサービス活動
南京の大学生8名が本学に9月末から3週間滞在します

お問い合わせ先:

☆学生たちの活動や歴史学教授の講演会の取材をご希望の方

ICU 献学 60周年記念事業事務局 (アドヴァンスメント・オフィス内) 電話:0422-33-3041 齊藤 EMAIL: anniv60office@icu.ac.jp

☆歴史学教授の講演会への参加やこのプログラムについての詳しい情報をお求めの方。

ICU サービス・ラーニング・センター 電話:0422-33-3687 村上、黒沼 EMAIL: slc@icu.ac.jp

お手数ではございますが3ページ目「取材申込書」を事前送付下さい。

■ **南京サービス・ラーニング特別プログラム**

国際基督教大学 (ICU)では現在、献学 60周年記念事業の一つとして「南京サービス・ラーニング特別プログラム」を実施しています。夏には本学学生が6名、南京を訪れてサービス(ボランティア)活動を行い、また現地の若者と交流し、相互理解に努めました。そして9月末には8名の中国人大学生が来日し、本学に3週間滞在して同様の活動を行います。滞在中、第一週(9月30日~10月4日)は学内で「日中理解週間 (Japan-China Week)」として、同プログラムに参加している本学学生が南京での活動報告や写真展を、中国人学生は現代中国の紹介プレゼンテーションを行い、そして共に「日中対話」セッションで語り合い、南京大学の劉成教授(歴史学)が本学で日中の和解・平和構築について平和学講演をします。

本学は1953年に設立され、今年が献学 60周年にあたります。献学 60周年を記念して「ダイアログ(対話)」をテーマとした数々の記念事業を行っていますが、なかでも「東アジアにおける対話」に焦点をあてた事業として2013年度南京でのサービス・ラーニング特別プログラムを展開しています。同プログラムは他に類をみない、双方向のダイナミックな構成になっており、これを通して南京でも本学でも、また広くは日中両国で若者や大学コミュニティが相互に関心や理解を深め、対話を生み、将来にわたり様々な場面で和解や平和構築へ繋がっていくことが期待されます。

■ **南京サービス・ラーニング特別プログラム実施の背景**

ICUでは2002年にサービス・ラーニング・センターを設立し、「サービス・ラーニング」を推進してきました。これは、学生が学外でサービス活動(ボランティア貢献活動)を30日以上行い、大学の学びに繋げる教育プログラムです。なかでも国際サービス・ラーニングでは学生が海外の国々の社会に飛び込み、現地の非営利機関やコミュニティで働く体験を通して、現地の社会・文化への理解を深め、グローバルな視野を拓けてきています。

2006年からは南京大学や現地 NGO などの現地機関の協力を得て、本学の学生を中国の南京市へのサービス・ラーニング派遣を開始し、現地の大学生も受け入れてきました。昨年までに合計 28 名の本学学生が参加し、南京からは南京大学、南京師範大学、金陵女子学院から合計 8 名の学生を招聘し、日中の和解や平和構築を組み込んだプログラムを継続して展開してきました。

その蓄積を経て、今年度の特別プログラムを ICU 生の南京への派遣と中国の学生の日本への受け入れを組み合わせ構成し、両国での活動を通して未来志向の日中相互理解、和解、平和構築に繋がることを目指しています。参加学生は渡航前に事前学習に取り組み、訪問時には現地の学生との共同作業や対話をし、歴史理解のためのフィールドトリップを体験します。また、新しい試みとして日中の歴史学者が相手国を訪問し、特別歴史講義を行います。

■ 南京サービス・ラーニング特別プログラム実施概要

【Part I】 ICU 生（6名）の南京派遣

日程：2013年6月27日～7月21日(25日間)

内容：ICU 生6名を南京に派遣。学生たちは（国際サービス・ラーニングの現地活動として）南京市内のジョン・ラーベ記念館およびアミティ・ベーカリーでサービス活動を行い、南京の大学生と対話し、ワークショップなどを通じて交流をし、また揚州にフィールドトリップを行った。ICU はまたウィリアム・ステイール教授（歴史学）を南京に派遣し、現地でオープンレクチャーを行った。

受け入れ機関：南京市の NGO 愛徳基金会（Amity Foundation）

協力大学：南京大学、南京師範大学、金陵女子学院

【Part II】 南京の中国人学生（8名）が来日

日程：2013年9月29日(日)～10月20日(日)（22日間）

内容：南京の大学生8名が来日し、学内に宿泊しながら東京の非営利機関（墨田区興望館、言論 NPO）でサービス活動を行い、学内では ICU 生と交流・対話をし、授業に参加する。中盤で広島・京都へフィールドトリップを行う。南京大学から歴史学教授を招聘し、学内でオープンレクチャーを開催する。

「日中理解週間」（9月30日～10月4日）の日程（予定）

9月30日（月）オープニング、オリエンテーション、歓迎昼食会、
キャンパスツアー、近隣案内

10月1日（火）興望館など活動機関を訪問、都内見学

2日（水）南京大学・劉成教授の講演（13:00～15:00）本学平和研究所との共催

3日（木）中国人学生によるプレゼンテーション（現代中国の紹介）

4日（金）日中学生による対話セッション（「自分たちを語る」）

*期間中は、中国人学生の ICU 授業参加や「ICU 生の南京での活動報告会」、および活動を伝える写真展「南京 2013 年 夏」も予定されています。なお、予定は変更される場合がありますので、取材にあたっては事前にお問い合わせください。

取材ご希望 連絡 F A X 返信用紙

2013年 9 月 11日

貴社名：	
ご所属：	
お名前：	同行人数：
電話番号：	
FAX 番号：	
電子メール：	
カメラの有無（○で囲んでください） ムービー・スチール・無	
連絡・通信欄： （取材ご希望のプログラム） （掲載ご予定媒体等）	

※誠に恐れ入りますが、この取材申込書を 9月25日（水）17:00 までにご提出ください。

国際基督教大学（ICU）献学60周年記念事業事務局（アドヴァンスメント・オフィス内）
TEL: 0422-33-3041 / FAX: 0422-33-3763 / EMAIL: anniv60office@icu.ac.jp

Commemorating ICU's 60th Anniversary
ICU-Nanjing Special Service Learning Program

Open Lecture 2013

“Reconciliation and Peace Building
between China and Japan in Perspective
of Peace Studies”

October 2
Wednesday

13:00~15:00

Professor Liu Cheng
(History Department, Nanjing University)



JAPAN

**平和
和解**

CHINA

**Everyone
Welcome**

**Venue: Togasaki Dialogue
House 2F Conference Room**

Welcome Greeting: Yoshito Ishio (SLC Director, Professor)

Facilitator: Yutaka Sato (ICUPRI Member, Professor)

Coordinator: Mutsuko Murakami (Nanjing SL program Coordinator)

Language: English

About Professor Liu Cheng
Chinese historian and peace educator. Professor at History Department of Nanjing University of China. He is the pioneer to introduce peace studies as an academic discipline into Chinese universities. Main publications: Wars and the Negotiations (2005), Peace Studies (2006), The British Modern Transformation and Remaking of Labour Party (2013).

Co-sponsored by Service Learning Center (SLC) and Peace Research Institute (ICU PRI)

Inquiries: International Christian University Peace Research Institute (ICU PRI)

Tel: 0422-33-3187 Fax: 0422-34-6985 Email: icupri@icu.ac.jp

ICU ERB1-240, 3-10-2 Osawa, Mitaka-shi, Tokyo, 181-8585 JAPAN